

2013年6月20日  
子宮頸がん征圧をめざす専門家会議  
議長 野田起一郎  
実行委員長 今野 良

### 子宮頸がん予防ワクチンの接種について — どうしようかと悩まれている方へ

積極的な接種勧奨が差し控えられたため、ワクチンの接種をどうしようかと悩んでいらっしゃる方が多いと思います。そのような方への子宮頸がん予防のためのアドバイスを申し上げます。

1. これまでに、既定通りワクチン接種を問題なく3回終了された方は、特に心配することはありません。今後、ワクチンの効果が発揮されます。
2. これまでに、1回または2回の接種を済ませ、今後のワクチン接種を継続しようと考えの方は引き続き接種を行ってください。その際には、接種医からワクチンの説明をきちんと受けてください。
3. これまでに、1回または2回の接種を済ませたが、今後のワクチン接種をためらっている方は接種医に相談してください。それでも不安な方は、ワクチンの積極的接種勧奨が再開してから、接種を行うことをお奨めします。ワクチンの標準的な接種間隔は「6か月間に3回」ですが、接種間隔が延びても3回接種することによって、十分な効果があります。1回または2回で中止してしまうと、十分な効果が得られない可能性があります。  
例) 1回または2回の接種後に妊娠した場合には、その後の接種は出産後に継続します。つまり、数か月または1年以上の間隔になっても大丈夫です。
4. 現時点で、ワクチン接種を行わないと決められた方は、ワクチンの積極的勧奨が再開してから、あらためて、接種の是非をご検討することをお奨めします。

ワクチン接種により子宮頸がんを約70%減らすことができます。それでも、おとなになったら（あるいはおとなの女性は）、必ず子宮頸がん検診を受けてください。

ワクチン接種をしなかった方や途中で中止した方は、ワクチン接種が完了した方に比べて、子宮頸がんに罹る可能性が高くなります。おとなになったら、より子宮頸がん検診を受ける重要性が増します。必ず、検診を受けてください。

ワクチン接種後に、万一、体の不調や心配があるときには、医療機関または自治体担当課窓口にご相談ください。